

# 教材「親子でスマホとゲームのお約束メイカー」 を用いた指導案について

この指導案は、「親子でスマホとゲームのお約束メイカー」の利用を通して、家庭と学校が連絡を取り合って、児童のスマホ・ゲームの扱いを整える約束作りを促すことを目的としています。そのため、児童の指導だけではなく、家庭に向けた課題も合わせて設定をしています。

スマホ・ゲームの利用し始める年齢は年々低下しています。小学校高学年段階では、児童が自由にスマホ・ゲームを扱えるようにしている、あるいは今更約束作りなんて…と消極的になりがちになり、その結果、様々なリスクに直面しやすくなっていることが懸念されます。この教材を通して今一度、スマホ・ゲーム利用の方法について振り返るきっかけとしてください。

## 1. 児童の目標

- スマホ・ゲーム利用上の約束の必要性、約束を守ることの重要性について、基本的なトラブルや、スマホ・ゲームの使い方を振り返り、適切な約束を提案することができる。
- 約束作りに自分から意見をのべ、家庭内で納得のいく約束を形成するコミュニケーション能力を身につける。

## 2. 教材全体の流れ

指導案は4授業分で構成されておりますがクラスの問題にあったテーマ1授業単位でも利用可能です。下記では活用方法の例を提示させていただきます。例であるため、別資料の「スマホ・ゲームの約束作り事前アンケート」は必須ではありません。指導の一助として活用ください。また、この教材は、学校と家庭の連携を図ることを目指しています。「スマホ・ゲームの約束作り事前アンケート」及び各ワークシートは家庭内で保護者の方と一緒に回答やコメントをしていただくことを求めます。

※指導案は①～④とナンバリングをしておりますが順番に授業を行う必要はありません。クラスで扱いたい内容を選んでお使いください。

### ① 保護者と一緒に回答するアンケートを配布 資料「スマホ・ゲームの約束作り事前アンケート」 ※必要に応じてお使いください。

児童のスマホ・ゲーム利用の実態を把握することを目的としています。実態を把握する事で授業ではどの問題を重点的に扱うかの参考にさせていただきます。保護者の方には、このデータを授業で統計処理して使用する可能性があること、今後の指導ではワークシートにコメントや確認をお願いすることも記載しています。



### ② ワークシートを用いて、授業を行う 資料「指導案 & ワークシートセット①～④」

指導案&ワークシートセットは児童配布用ワークシートと教師向けの指導の背景やデータを付した教員用解説資料があります。児童同士がコミュニケーションを図れるように、指導案には必ず意見交換もしくはグループワークの活動を取り入れています。



### ③ 家庭との情報共有と学習活動を振り返る「児童配布用ワークシート」

ワークシートを持ち帰り、各家庭で約束作りについて話し合い、コメントを書いてもらうようにしています。保護者の方にはスマホ・ゲーム利用についての児童の意見を聞く機会になり、児童にとっては学習内容の振り返り、自分の言葉で説明できる力をつける狙いがあります。

※児童が持ち帰り、保護者の記入をいただいたワークシートを回収する際は、家庭内の約束などプライベートな情報が掲載されている可能性があるため、児童同士で共有させない、回収は教員が行うなど、取り扱いに十分ご注意ください。

※今回の指導案は児童のスマホ・ゲームのトラブルを減少させるには親子間での約束作りが効果的だという事を気づいてもらうコンセプトになっております。その為、実際に約束作りに役立つwebサイト「親子でスマホとゲームのお約束メイカー」を紹介している啓発冊子「親子でスマホ・ゲームの約束作って未来を救う物語」を児童配布用ワークシートとセットで児童に持ち帰ってもらうようお願いいたします。

### 3. 家庭との連携にあたって

今回の指導案を実施するにあたり、ワークシートに保護者の皆様の記入が求められています。記入を通して、家族で「うちの家ではスマホ・ゲームの使い方をどうしよう」という会話を促すことも期待しております。そのうえで、保護者の皆様に以下の2点をお願いすることが重要であると考えます。

#### ① アンケートや指導案を通して、家庭での情報端末やお金、人間関係に触れることがあること

アンケートやワークシートへの記述は各家庭の情報を収集することが目的ではありません。そのため、ワークシート内の「一緒に考えよう」から下部の回答内容は児童の生活指導や成績には影響しません。また家庭環境を外部に分かるような取り上げ方はいたしません。

指導の中では約束の正解を児童に教えるのではなく、「スマホ・ゲームを使う上で約束やマナーはなぜ必要なのか」、「約束を守って使うことが快適な生活につながる」ことを伝えています。その学びを家族で共有したうえで、それぞれのご家庭の環境に合わせた約束作りができることを目指しています。

児童にとっては授業を通しての学びを家族で共有し、それに対してワークシートに記述を貰えるのは児童にとっても学びの成果を体感でき、マナーなどの多様な価値観があること、大人や子どもとみている感覚の違いを学ぶことができると期待しています。

#### ② アサーティブなコミュニケーションをおねがいします

子どもとの約束作りにおいて、「子どもの言いなりになってしまうのでは」、「親はよくわからないから口をださないほうがいいのか」という意識があるご家庭も多いのではないかと思います。そこで、コミュニケーションの方法として「アサーティブ」な方法を提案します。アサーティブコミュニケーションとは、コミュニケーションの形態を指します。

	説明	例
アグレッシブ	相手の立場や環境、状況を考慮せず、自分の意見や価値観を一方的に主張するコミュニケーションタイプです。自分の考えを通そうとすることが目的となっています。言っていることが聞き入れられないこともあり、感情的になりやすい傾向にあります。	明日、13 時からの映画を見ようとしていたのに、相手が「10 時からの上映にしたい」と言い出した。 「どうして私が時間を変えなきゃいけないの？ 時間は変えない」 「じゃあもう映画に行かない」
アサーティブ	相手も自分も大切にできるコミュニケーションです。自分の意見も相手に伝えつつ、相手の意見も聞き入れ、お互いの着地点を探るコミュニケーションタイプです。  相手の年齢や性別等についても、態度や姿勢が左右されない。	明日、13 時からの映画を見ようとしていたのに、相手が「10 時からの上映にしたい」と言い出した。 「どうしたの何かあった？ 13 時からでは難しかった理由はある？」 「私も 10 時にすると都合が悪いから、他の日程調整しようよ」
ノンアサーティブ (パッシブ)	消極的で、自分の意見を述べられず、相手に意思決定をゆだねるコミュニケーションタイプです。自分の意見を手放したりするため、素直になれず、相手との関係性に対してストレスをためやすい。	明日、13 時からの映画を見ようとしていたのに、相手が「10 時からの上映にしたい」と言い出した。 「(私は 10 時からじゃ都合悪いのに…) いいよ、じゃあ 13 時にしようか」

アサーティブにコミュニケーションをして「大人がこうしてほしいと思っている」という願いと、「子どもがこうしたいと思っている」という願いの両方を聞き入れ、お互いの着地点を探る方法です。着地点がどうしても見えない、どうしてもお互いが譲歩できない場合は、一度話し合いをやめてみるのも方法です。その場合、その後のコミュニケーションに気持ちを引きずらないのは重要です。

また、「約束の部分を譲歩するので、約束を破ったときのペナルティは私が決めていい？」といったように、お互いの納得のいく約束とその守る条件を検討し合うことが望ましいでしょう。